# コミュニティ・スクール津屋崎中学校 学 版 首



令和2年3月26日 文責 校長 清水光朗

#### ≪ 3月13日(金)、卒業式が行われました。≫

新型コロナウイルスの感染防止のため、1・2年生や来賓・地域の方は参加することができませんでしたが、3月13日(金)に、本校の卒業式を行う事が出来ました。福津市教育委員、PTA会長、PTA役員、卒業生の保護者の皆様の、ご臨席ご参加で、卒業式が行われたことは、たいへんうれしく思います。卒業生も、中学校の三年間を振り返り、満足した表情で、自信に満ちた姿を、卒業式で見せてくれました。

### 式 辞

海から吹く風に、春の香りを感じる、今日の良き日に、ご来賓の皆様と、保護者の皆様と共に、令和元年度、第73回 津屋崎中学校の卒業証書授与式を挙行できますことを、心から感謝申し上げます。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。この一年間、最上級生としての、皆さんは、大変立派でした。体育祭で頑張る姿、地域でのボランティア、文化祭の取組、行事の協力、授業の集中、部活動・社会体育での活躍、日々の活動、皆さんの、素直で明るいところ、真面目で一生懸命な姿が見られました。人としての良さが感じられました。

さて、私は、四月からこの一年間、卓球の石川佳純さんの、自分に諦めないという話をしてきましたが、 最後に、卒業を迎え、皆さんへ、次のことをお伝えします。それは、人にとって大切はなのは、心、心のあ りようだということです。私は、尊敬する知人に、常々こういわれています。「人は、相手の心や、心意気に よって、動いてくれる。協力し支えてくれる。人は心が大切だ。」何度も言われてきたこの言葉が記憶に残っ ています。少し前に書店に行ったとき、偶然「心」という本をみつけました。この本は、京セラや KDDI を設 立し、当時経営破綻していた日本航空 JAL を再生した稲盛和夫(いなもりかずお)さんが、よりよき人生を 送るための、極意として、書かれたものでした。人生は心のありようで、すべてが決まっていく。「他者への 思いやり」「人のためになるのか」をベースに、日々の生活の中で、できるかぎりの努力を諦めずに重ねてい く。そうすれば必ずや運命は好転し、幸福な結果が訪れる。いかなるときも自分の心を美しく、純粋に保っ ておくことが大切。それが自分の可能性を大きく花開かせ、幸福な人生への扉を開くことであると。心を美 しくし、心を高めることとして、2つのことをいわれています。一つ目は、「良いことも、悪いことも、感謝 の気持ちで受け止める。」つねに謙虚な気持ちで、感謝を忘れてはならない。順風満帆なときも、災難・不幸 な状況のときも、実は感謝する「絶好の機会」だと。そうした出来事が私たちの心を鍛え、磨いてくれる。 前向きにとらえて、感謝して、明るい気持ちで歩んでゆくこと、「感謝するのだ」「ありがとう」をインプッ トしておくことが必要と。二つ目は、目の前にある仕事を懸命にこなすことが何にもまして心を高め、磨く ことになる。日々の仕事やなすべきことに、集中し、一生懸命行っていくと、座禅の最中の「無」の状態の ようになり、心はおのずと美しく磨かれ、人格は陶冶(とうや)されていく。と書かれています。

「心を鍛え、心を磨く、心が大切」

「他者への思いやり、人のためになることに決して諦めずに、やりぬく」

「つねに謙虚に、素直な気持ち、感謝の気持ちを持つ」

このような心のありようで、必ずや運命が好転し、幸福な結果を導くことができると。

私の経験からでも、必ず、相手のためになる、絶対にこれは人のためになる正しく良いことだ、というときは、心でぶつかり諦めず行うことで、成し遂げられてきました。

卒業生の皆さんも、今後、人生で起こってくる良い出来事も、悪い出来事も、心を鍛え、磨き、高める機会と考え、「ありがとう」と思い、明るく、前向きに頑張ってください。また、高校でも、授業や勉強、部活動、目の前のことに、集中し、一生懸命行い、心を高めてください。さらに、「他者への思いやり」や、「人のためになるのか」をベースに、日々の生活の中で、できるかぎりの努力を諦めずに重ねていき、多くのことで成功して、幸せな人生を送ってほしいと思います。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。これまで、中学校の 教育活動への、ご理解ご協力、ありがとうございました。

お子様の、これからの進路も、自分で決めさせ、あまり追い込みすぎないでください。そして、見守る目は、忘れず、危険なサインは、決して見逃さないでください。皆様方の大事なお子様方が今後も幸せな人生を送られますよう、前途に幸、多からんことを心よりお祈りし、式辞といたします。

令和二年三月十三日 福津市立津屋崎中学校 校長 清水光朗









## ≪ 卒業生代表答辞 富山ゆりあ ≫

**答辞** 

厳しい寒さに耐えた花が、今咲き誇ろうとするこの良き日に、私たち129名は、この津屋崎中学校を卒業します。校長先生をはじめ、諸先生方PTAの皆さん、私たちのために素晴らしい式典を催して頂き、ありがとうございます。また、ご多忙の中、私たちのために足を運んで下さった保護者の皆様に厚くお礼申し上げます。皆様の心温まるお祝いの言葉、深く胸に刻まれました。3年前の4月、真新しい制服に身を包んだ私たちは、この体育館で入学式を迎えました。小学校とは違う環境に不安は増し、ただ先輩方について行くのに精一杯でした。

2年生になると、私たちも「先輩」と呼ばれるようになりました。初めの頃はそう呼ばれることに違和感があった私たちでしたが、様々な行事を通して先輩としての自覚をもつようになりました。 2年生の大きな行事の一つである修学旅行では、USJや京都の街、神戸市の中華街などを巡りました。ホテルの部屋で仲の良い友達と夜遅くまで語り明かしたことは、忘れられない思い出です。

3年生になると、受験が近付く中、学校行事や部活動など、様々なことに「最後」という言葉がつくようになりました。5月、青空のもと行われた体育祭、最上級生として後輩たちを上手く引っ張っていくことができるか少し不安もありましたが、1・2年生のお手本となるため、日頃の練習に全力で取り組みました。本番では、ブロックをこえて声をかけあい、体育祭テーマの「輝~努力が光り輝く今この瞬間~」のように、今まで積み重ねてきた生徒一人ひとりの努力が光り輝く最高の体育祭になりました。

10月、クラス全員で一丸となって、練習や準備に取り組んだ文化祭、合唱コンクールではどのクラスも金賞を目指し、「結唱~輝け382人の努力の証~」のテーマのもと、合唱リーダーを中心に練習に励みました、初めはばらばらだった歌声も、練習を重ねる度にまとまり、各クラスの熱い想いと個性が詰まった素晴らしい合唱を作り上げることができました。また、部活動を通して成長したこともたくさんありました、私にとって一番大きな経験となったことは、キャプテンになったことです。

私が所属していたソフトボール部は、新チームになった時、部員が8人で、試合をするには1人足りないという厳しい状態でした。そんな中で「8人でも中体連でいい結果を残すためキャプテンの自分がもっとしっかりしなきゃいけない」という気持ちがどんどん大きくなり試合でも失敗したらすぐ周りが見えなくなっ

て、自分のことばかりしか考えていませんでした。そんな私を救ってくれたのは、同じチームの仲間です。 「1人で考え込まずに相談してね」と励ましてくれた仲間のおかげで、最後の中体連までチームを引っ張っ ていくことができました。目標としていた県大会まで行くことはできなかったけれど、仲間たちと共にソフ トボールをしてきた時間は、私にとって大切な思い出です。

そして2年間携わってきた生徒会活動も、私を大きく成長させてくれました。学校行事にただ参加していた1年の頃とは違い、生徒会長なってからは、全校を動かし、学校行事を創るという立場になりました。時には、失敗して先生方に厳しく叱られ、投げだしたくなることもありましたが、共に頑張ってきた生徒会役員や支えて下さった先生方、全校生徒の協力のおかげで最後まで続けることができました。この2年間から私は、大勢の人たちの先頭に立つことの責任の重さと、周リで支えてくれる人の大切さを学ぶことができました。

この3年間は、私たちを大きく成長させてくれた、かけがえのない時間となりました。どんなときでも、共に笑い、共に涙を流してきた仲間たちとの出会い、そして思い出の一つひとつは、全て私の大切な宝物です。そして私たちが、この卒業の日を迎えることができたのはたくさんの人たちの支えがあったからです。3年間、指導してくださった先生方。いつも生徒一人ひとりのことを考え、受験前で緊張と不安でいっぱいだった私たちの心の棘を優しく抜いてくださいました。日々の授業での話や、落ち込んでいたときにかけてくださった温かい言葉の数々が、私たちをここまで導いてくれました、本当にありがとうございました。そして、私たちを一番近くで支えてくれた家族、家ではあまり伝えることができなかったけれど、「家族」の存在は、私の中で他の何よりも大きいものでした。どんなわがままも受け入れ、いつも私の幸せを望んでくれたお母さんの温かい言葉や、つらいとき、投げだしたくなるときに、悩んでいたことを忘れてしまうくらい明るく励ましてくれたお父さんの存在が、ずっと私の心の支えでした。言葉では言い表せないほど感謝しています。またたくさん迷惑をかけるかもしれないけれど、これからもそばで見守ってください。最後に、今まで同じ道を共に歩んできた仲間へある歌の歌詞を贈ります。

「僕らが選ぶ分かれ道には失敗も後悔もあると思うけど

振り向かないで今を生きれば喜びに幸せに必ず出会う」

私たちは今日で義務教育を終え、別々の道を歩んでいくことになります。中には、この津屋崎を離れる人もいます。これから出会ういくつもの分かれ道、迷ったときは、歌詞の通り、振り向かずに今を生きてください。空を見上げて、今まで共に過ごしてきた仲間のことを思い出してください。それぞれ違う場所にいたとしても、ここで3年間を共にしてきた私たちならきっと、大丈夫です。様々な人との出会いと、最高の3年間をくれた津屋崎中学校。私たちはその卒業生であることを誇りに、それぞれの夢への道を一歩ずつ力強く歩んでいくことを誓います。

令和2年3月13日 卒業生代表 富山ゆりあ

### ≪ 在校生代表送辞 吉村新菜 ≫

送辞

本日は皆さんの旅立ちにふさわしく、弥生3月、春の暖かさが感じられ、いよいよ春めいてまいりました。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

今、先輩方は、この津屋崎中学校での3年間をどのように振り返っていますか。多くの人との出会いや、 苦楽を共にしてきた仲間との日々を一つひとつ思い出しては噛みしめていることと思います。私たち後輩を 引っ張ってくださった先輩方からは、多くのことを学びました。

先輩方はいつも明るく、笑顔で部活動や学校行事などを引っ張ってくださいました。

5月とはいえ猛暑の中で行われた体育祭。練習が続き、私たち後輩は体力的にも精神的にも限界で、気持ちが沈んでしまうときもありました。そのようなときでも、先輩方は前向きな気持ちになれる言葉をかけてくださいました。先輩方も疲労がたまっていたことと思います。そのような状況の中で、私たちを元気づけてくださった先輩方の笑顔を今でも覚えています。後輩をまとめる力をもっている先輩方に、私たちは何度も元気をもらいました。

それぞれのクラスが思いを一つにし、美しい歌声を響かせた文化祭。先輩方が休憩時間にカメリアホールの外で練習していた姿から、最後の合唱コンクールにかける思いの強さを感じました。そして、本番では難易度の高い歌に思いを込めて、私たちに素晴らしい歌声を届けてくださいました。

津屋崎中学校を明るく、笑顔で盛り上げ、引っ張ってくださった先輩方が巣立っていかれるのは寂しいです。これから先、それぞれの道を歩んでいく先輩方に、「生きている証」という歌の一節を送ります。

『君の手と僕の手を重ね合い、微笑んだり、傷ついたり、支え合ったりあふれる涙も悲しみも生きている証だから。』これから先、つらいことや大きな壁にぶつかるときがあるかもしれません。そのときは、3年間ともに喜び合い、支え合った仲間も同じ空の下で頑張っていることを思い出してください。そして、自分の

力を信じて前に進み続けてください。先輩方が残してくださった素晴らしい姿は、私たちがしっかり受け継ぎます。そして、これまで以上に津屋崎中学校を盛り上げていきます。

今回、先輩方の旅立ちを見届けることができず残念ですが、卒業される先輩方のご健康と更なる飛躍をお 祈りして、送辞といたします。

令和2年3月13日 在校生代表 生徒会長 吉村新菜

















新型コロナウイルスの影響により、在校生は参加できませんでしたが、卒業生にとって、素晴らしい卒業の日となりました。明るく素直な温かい子どもたちで最後まで大変立派でした。答辞にもありましたが、それぞれの夢への道を一歩ずつ力強く歩んでほしいと思います。

なお、卒業記念品として生徒昇降口前に時計を頂きました。ありがとうございました。